



講座紹介

申込
期間

小・中・義務教育学校：5/20(月)～5/29(水)
府立学校：5/20(月)～6/3(月)

指標
観点

学習
マネ

学習指導
マネジメント

人権
人権

会場

セ センター

所 各所属校(園)

北 北部研修所

外 外部会場

校内
研修
活用

校内



No.409

7月1日(月)～8月7日(水)
8月20日(火) 13時30分～

小中学校理科授業づくり講座【授業構想編】

～小中のつなぎとICT活用を意識して～

講師 京都教育大学 教授 谷口 和成

会場 外

学習

小学校・中学校の学びの接続を意識し、より豊かで確かな「理科の見方・考え方」を身に付け科学的思考力をはぐくむ授業を創造する力を高めます。



No.432

7月24日(水)～8月21日(水)

最新ICT動向講座

～Society5.0社会を学ぶ～

講師 福知山公立大学 教授 倉本 到 ほか

会場 所

学習

Society5.0社会に向けた最新のICT動向について幅広い見識を養い、VUCA時代に生きる児童生徒が必要な資質・能力への理解を高めます。



No.351

7月25日(木) 13時30分～

スクールソーシャルワーク講座

会場 セ

講師 京都府まなび・生活アドバイザースーパーバイザー 社会福祉士 長澤 哲也

人権

子どもと保護者を支援するためのスクールソーシャルワークについて学びます。主に学校が担うプラットフォームとしての役割と、他職種・専門機関との連携について理解を深めます。



【市町(組合)立学校】 No.851
【府立学校】 悉皆S28 選択G23

7月31日(水)
16時00分～

授業基礎 (iPadの操作)

会場 所

Apple製品エキスパートによるiPad基編「授業で使えるiPadの活用アイデア」について学びます。



【市町(組合)立学校】 No.875
【府立学校】 悉皆S27・M22・H21
選択G22

7月29日(月)
16時00分～

授業活用 (学び直し×ICT)

会場 所

ICTを活用した個別最適な学びについて、「学び直し」の視点から考え、自ら学ぶ児童生徒を育てるための考え方や自己調整学習、個の特性に合わせた支援の理解を高めます。



No.422

7月12日(金) 13時30分～

中高外国語科教育講座

～The Road to Teaching in English～

講師 岩手大学 教授 James M Hall

会場 セ

学習

「授業を実際のコミュニケーションの場面とする」ための指導の在り方について学びます。



No.505

7月2日(火) 13時30分～

校内研修の充実講座Ⅱ

～ICTを活用した校内研修～

講師 熊本大学大学院 特任教授 前田 康裕

会場 所

マネ

校内

「令和の日本型学校教育」を担う教職員集団の姿の実現に向けた校内研修改善の視点を学びます。



No.354

7月22日(月) 15時30分～

子どもの貧困と学習支援講座

講師 大阪公立大学大学院 准教授 五石 敬路

会場 所

人権

校内

子どもの貧困の現状を理解し、プラットフォームとしての学校に求められる支援について理解を深めます。



【市町(組合)立学校】 No.869
【府立学校】 悉皆S21・M16・H15
選択G16

7月12日(金)
16時00分～

校務活用 (情報モラル)

会場 所

情報活用能力としての情報モラル教育について学び、情報モラルの指導や「リスクに対応する力」の育成について考えます。

学校DX研修

CHECK!!!

※学校DX研修は、効果的なICTの活用を推進する研修です。
実施時間：16:00～16:50

7月期対象講座数：府立学校 12講座
市町(組合)立学校 10講座

学校DX研修の概要については、
右の二次元コードから御確認いただけます。



「新たな教職員の学び」に向けた探究型研修開発

センターで今年度実施する「探究的な学び講座シリーズ」は、これまでの講師による講義や演習ではなく、「自らの実践を振り返ることを通して自ら問いを立て、更なる実践を積み重ねて次につなげていく」という先生方の探究を支援する、新たなスタイルの研修です。本プロジェクトは「新たな教師の学びの姿（中教審答申）」の実現に向けた研修開発に係る研究です。

「新たな教職員の学びの姿」とは

変化を前向きに受け止め、探究心を持ちつつ自律的に学ぶ

「主体的な姿勢」

求められる知識技能が変わっていくことを意識した

「継続的な学び」

新たな領域の専門性を身に付けるなど強みを伸ばすための、一人一人の教師の個性に即した

「個別最適な学び」

他者との対話や振り返りの機会を確保した

「協働的な学び」

毎日の実践の中で、先生方は、児童生徒と関わり、同僚の先生方・保護者・地域の方などと交流し、様々な経験をすることで、子ども観や学習観・指導観を形成しています。これは、「既に探究心を持ちつつ自律的に学んでいる」状態と言えるのではないのでしょうか。総合教育センターが実施する「探究型研修」は、この「自律的に学んでいる」状態の中で、参加された方の力量形成・深化の過程がより豊かになるように支援するものでありたいと思います。

【探究型研修】
探究的な学び
講座シリーズ
のイメージ



「探究的な学び講座シリーズ」は、先生方が自身の経験や実践を振り返ることで得られた気づきや知識を、更なる実践に繋げていく過程を通して学ぶ研修です。この研修の開発を通じて得られた知見は、今後、センターで実施する研修や新たな探究型研修の開発に生かしていきます。

今、あらためて『不登校』を考える

京都府総合教育センター教育相談部では、「今、あらためて『不登校』を考える」というテーマで研究を進めています。令和4・5年度に行った「不登校に関する教職員の意識調査」において、教職員が不登校の児童生徒と関わる時に「困ったこと・困っていること」について尋ねたところ、キャリアステージによって回答に違いがわかりました。

初任期 「なぜ不登校に？」

中堅期 「登校へのアプローチの方法は？」

充実期 「どうやって会う？」

熟練期 「連携はどうする？」

校内教職員間連携の第一歩として

教職員が困ったこと、困っていることの違いを理解することは「チーム学校」として不登校児童生徒への理解と対応に肯定的に働くのではないのでしょうか。校内にどのようなサポート体制があり、どのような手立てが有効かを考える時、教職員間で困っていることを分かち合うことによって様々な視点が生まれ、多様な手立てが見いだせる可能性があります。

○ 先生は、お近くの先生が、今どのようなことに悩んでおられるか御存知ですか？

○ 先生は、御自身の困りごとを、お近くの先生方と共有されていますか？

学校外の機関との連携が必要な場合もありますが、まずは、周りの先生方と困っていることを共有し、教職員の連携を強くすることが大切だと考えます。児童生徒を理解し、関わり続けるには、多くの時間を要します。また、考え続けるのは苦しい営みでもありますが、人のこころは簡単に理解できるものではありません。繊細で、刻一刻と変化していく子どものこころに寄り添うには、先生方の「困ったこと・困っていること」を共有するところからスタートすることが大切なのではないのでしょうか？

教育相談部では、令和6年度も、「今、あらためて『不登校』を考える」というテーマで研究を行い、不登校について考え続けていきます。なお、研究の詳細は、京都府総合教育センターホームページ（ITEC）を御覧ください。右のURL・二次元コードからアクセスできます。

<https://www.kyoto-be.ne.jp/ed-center/cms/?p=1060>

